

生活困窮者、ひきこもり状態にある者及び生活困窮家庭の子ども等の支援を行う民間団体に対し、
中間的支援を行う事業

報告書



特定非営利活動法人フードバンクかごしま



目次

- | | | |
|---|----------|---------|
| 1 | 本事業の目的 | P3 |
| 2 | 本事業の実施内容 | P3-P4 |
| 3 | 本事業の成果 | P5 |
| 4 | 本事業の課題 | P5 |
| 5 | 活動報告編 | P6-P11 |
| 6 | アンケート分析編 | P12-P19 |



3/14座談会の様子

1 本事業の目的

本事業は、緊急度の高い子どもがいる生活困窮者が、社会的孤立にならず、自立に向かうための生活不安の状態を解決すること目的とした事業であるが、その手法として令和4年度から特定非営利活動法人フードバンクかごしま（以下、フードバンクかごしま）が独自で実証実験を行ってきた「相談会併設型フードパントリー」を主軸として、個別支援を実施している民間団体や行政と連携し、その内容の理解及び実施方法の研修を行うことで社会的なインフラとして地域に根差すことを目的とした事業である。

また、「相談会併設型フードパントリー」を実施するための提供食品の安定的な供給ができる体制を構築することも目的とした。

2-1 本事業の実施内容（内容）

本事業は、3つの柱を軸として事業を進めた。

- ①緊急度の高い子どもがいる生活困窮者が、社会的孤立にならず、自立に向かうための生活不安の状態を解決することを目的に、食料支援をきっかけにした専門家（保健師や行政書士、ファイナンシャルプランナーなど）による生活相談を併せて行う民間団体に対して、フードバンク団体として連携し食品を提供する中間的支援を行う事業
- ②事業に対応できるスタッフ及び生活相談と併せた食料支援ができる民間団体を増やすことを目的とした研修事業
- ③当事者に対して十分な食料が提供できることを目的とした食品関連企業への事業説明及び食品提供を増加するための事業

※①②に関しては、協力団体として、鹿児島市こども食堂を中間支援している特定非営利活動法人かごしまこども食堂支援センターたくして様（以下、たくして）や個別支援として要支援家庭へ訪問及びフードパントリー事業を行っているチームまる様の協力を得ることで実行できた

2-2 本事業の実施内容（体制）

①本事業の体制

①フードバンクかごしま：

食品確保・食品衛生管理・募集チラシ等の作成・
プロジェクト事務局・食品衛生管理研修・
食品提供企業/団体へのアプローチ・
アンケート作成/分析・報告会（意見交換会）の開催

②たくして：

鹿児島県内のことども食堂・フードバントリー実施団体への
呼びかけ・相談会併設型フードバントリー実施

③チームまる：

個別支援のスタッフ研修・個別支援

④鹿児島県司法書士会青年部・FP：

個別相談会対応・専門分野の伴走型のフォロー

⑤鹿児島市・鹿児島市社協・鹿児島市保健所：

事業アドバイザー

⑥公益社団法人日本フードバンク連盟・

特定非営利活動法人セカンドハーベスト・ジャパン
事業アドバイザー・食品提供企業への広報・
食品提供企業の紹介

3 本事業の成果

成果については大きく2点。

- ①「相談会併設型フードパントリー」の認知度が向上し、現在鹿児島市が同じ形式で実施している「こども相談サロンフードパントリー」が地域の核となりえる可能性が示唆された。また鹿児島市の事業を中核として、民間でも「相談会併設型フードパントリー」の実施をすることで行政と民間の連携の可能性も確認できた。また個別支援という枠組みでの横の連携ができることにより持続可能性が高まった。
- ②各種データを収集できることにより、他の自治体及び食品提供企業からの問い合わせなどが増えた。

4 本事業の課題

本事業の課題は、地域での連携のスタートはできたが、具体的な連携の形や方法はまだ全く決まっていない状況である。

特に実効性の高い支援を続けていくためには対象世帯（個人）の個人情報の管理についてのルール決めや情報のやり取りの方法などを決めなければならないために今後も連携団体間での打ち合わせを通じての取り決め、また第3者機関のアドバイス等が必要である。

そのためには関係する団体等の連携をより強固なものとし、できるだけ多くの地域内の関係する団体を巻き込む必要がある。

次に行政との連携についてはまだ多くの課題があることが分かった。行政が実施する事業は行政独自の名簿等を活用することがあり、その名簿へのアクセス権は非常にハードルが高い状況である。また一方で民間団体が支援している方を紹介するにあたっても行政内での役割により窓口が様々であり、連携をとるためには窓口の整理からスタートしないといけない状況である。

5-1 活動報告編

①活動スケジュール及び開催場所

○鹿児島市との連携活動

令和6年

4月30日 (火)	全体研修会@こども家庭支援センター
5月31日 (金)	@こども家庭支援センター
6月21日 (金)	@松元地区保健センター
7月30日 (火)	@郡山地区保健センター
8月20日 (火)	@桜島地区保健センター
9月6日 (金)	@吉田地区保健センター
10月4日 (金)	@喜入地区保健センター
11月21日 (木)	@西部保健センター
12月2日 (月)	@中央保健センター

令和7年

1月10日 (金)	@東部保健センター
2月5日 (水)	@南部保健センター
3月13日 (木)	@北部保健センター

開催場所	申込者数 (世帯)	参加者世帯数 (人数)
こども家庭支援センター	28	17 (31)
松元保健福祉課	12	11 (21)
郡山保健福祉課	7	5 (14)
桜島保健福祉課	7	5 (11)
吉田保健福祉課	5	5 (6)
喜入保健福祉課	7	6 (14)
西部保健センター	13	7 (17)
中央保健センター	13	10 (20)
東部保健センター	13	5 (9)
南部保健センター	16	雪予報により中止
北部保健センター	9	7 (13)
合計	130世帯	78世帯 (156人)

5 - 2 活動報告編

○民間団体との連携活動

令和 6 年

- 6月12日 第1回民間連携ネットワーク準備会
- 7月11日 第2階民間連携ネットワーク準備会
- 9月6日 吉田地区団体への食品提供及び民間団体見学会
- 10月4日 喜入地区団体への食品提供及び民間団体見学会
- 12月2日 鹿児島市中央地区団体への食品提供
及び民間団体見学会
- 12月26日 鹿児島市谷山地区団体への食品提供及び
民間団体による相談会併設型フードパントリー開催
フードパントリー研修会（3団体参加）

令和 7 年

- 1月10日 鹿児島市東部地区団体への食品提供
- 2月16日 鹿児島市谷山北地区相談会併設型フードパントリー
開催及び見学会（2団体参加）
- 2月22日 倉庫見学：食品取扱研修会（2団体参加）
- 3月13日 鹿児島市吉野地区団体への食品提供
- 3月14日 個別支援団体座談会（報告会）開催
- 3月30日 相談会併設型フードパントリー開催

配布先	団体数	対象世帯
吉田地区団体	1 団体	10世帯
喜入地区団体	2 団体	30世帯
中央地区団体	5 団体	150世帯
谷山地区団体	5 团体	120世帯
谷山フードパントリー		12世帯
東部地区団体	5 团体	80世帯
谷山北地区団体	3 团体	150世帯
谷山北フードパントリー		14世帯
吉野地区団体	5 团体	110世帯
吉野フードパントリー		11世帯
合計	26 団体	692世帯

5-3 活動報告編

○作成したチラシ類



5 - 4 活動報告編

②チラシ等製作物について

①チラシの配布について

- ・「こども相談サロンフードパントリー」について
鹿児島市の要支援者名簿に対して、鹿児島市が必要と思われる世帯に対して配布
- ・「相談会×フードパントリー」
たくしてが支援しているこども食堂やフードパントリー実施団体から必要だと思われる世帯に対して配布
- ・各種研修会及び座談会
たくしてが支援しているこども食堂やフードパントリー実施団体及び研修参加を希望する民生委員・児童委員、行政等の団体へ配布

②申込方法について

2次元コードに申し込み用のGoogleフォームにつながるよう
にした形での申し込みとした

③デザインについて

分かりやすい文章で文字も丸みを帯びた文字を利用することで
参加しやすさを追求したデザインとした

5-5 活動報告編

○座談会（報告会）の報告

日時 令和7年3月14日（金）10：00～11：00

参加者 別紙参照

内容

1) 鹿児島市内での各種取り組みに関する報告

①鹿児島市「こども相談サロンフードパントリー」事業

②フードバンクかごしま「相談会併設型フードパントリー」事業

③たくして「地域のこどもにみんなでサンタプロジェクト」事業

2) 意見交換（支援の現状や問題点などを各団体の視点からの情報共有）

3) 本事業へのアドバイス・他県事例の紹介

特定非営利活動法人セカンドハーベスト・ジャパン

4) 今後の動きについての意見交換

結果

1) それぞれの活動の報告により、現在実施されている事業についての相互理解が高まった

2) 形は違うが問題意識の内容については共通のものがあることが分かった。具体的には、「問題が深刻化する前にいかに手を差し伸べるか」ある。

3) 単年度の対応では問題解決にはならず、継続的な活動が重要であること、また横のつながりを強めることが重要であるとの認識ができた（来年度以降も続けること）

5-6 活動報告編

○座談会（報告会）の報告

参加者一覧

団体名	役職	お名前
FPサポートリフェリックス	代表	関野 信一
ほっぺ食堂（チームまる）	代表	西村 るり子
NPO法人 かごしまこども食堂支援センター たくして	理事長	園田 愛実
NPO法人 かごしまこども食堂支援センター たくして	コーディネーター	古井 露子
なかす子ども食堂	代表	松元 弘子
ほしがみね☆みんなの食堂	代表	田中 かすみ
ちいき食堂「牧場の家」	代表	篠塚 公美
鹿児島県青年司法書士会	幹事	竹中 啓人
鹿児島県青年司法書士会	幹事	永田 賢四郎
こども家庭支援センター	主事	鮫島 未羽
こども家庭支援センター	主事	福本 星河
NPO法人 フードバンクかごしま	理事	有田 剛志
NPO法人 フードバンクかごしま	理事	吉留 大輔
NPO法人 セカンドハーベスト・ジャパン	社員	高橋 祥子

※アドバイザーとしてセカンドハーベスト・ジャパンの高橋
さんに東京からお越しいただいた

○食品提供企業へのアプローチについて

これまで関係のある企業や団体に対して、アプローチを行い、
大阪、東京での打ち合わせを実施したが、まだ契約までは至
っていない。

2/15-2/17@東京 セカンドハーベスト・ジャパン様に訪問し、
企業紹介等の依頼（3/14講師派遣依頼相談）

2/16-17 @大阪 以前問い合わせのあった企業様への訪問説明

3/28-3/29@東京 セカンドハーベスト・ジャパン様からの初回
企業を訪問説明

※いずれの企業も検討中ではあるが、ネックとしては鹿児島ま
での輸送等であるとのこと。社会的な意義はみとめてもらえた
たので、今後詳細を検討していくことになる

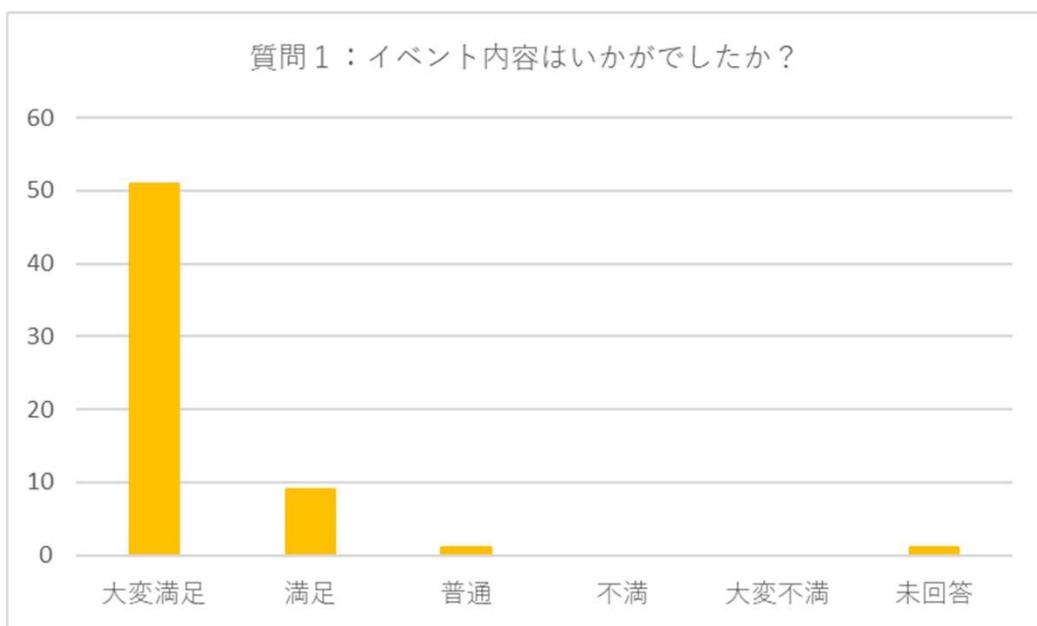
6-1 アンケート分析編

①アンケート概要（鹿児島市との連携事業実施分）

アンケートは全7問。第1問～第4問は選択式、第5問～第7問は記載式。アンケート回収は相談会後に記入の協力を直接依頼し、回収。回収数は62。回収率は79.4%。

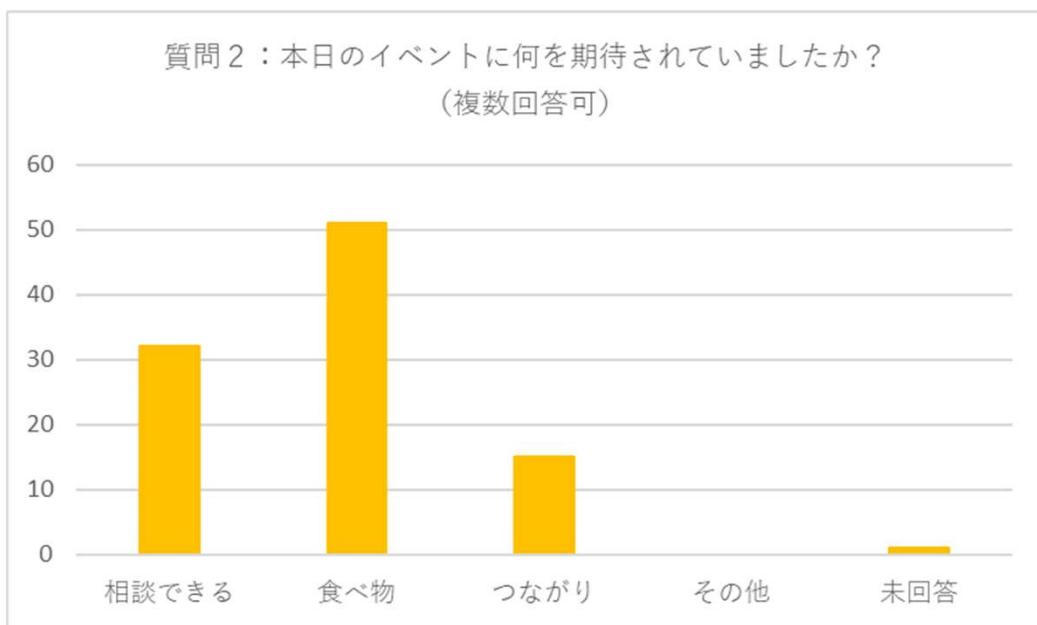
②各質問の分析

問1：イベント内容はいかがでしたか？



大変満足と満足が総数の9割を超え、満足度は高い

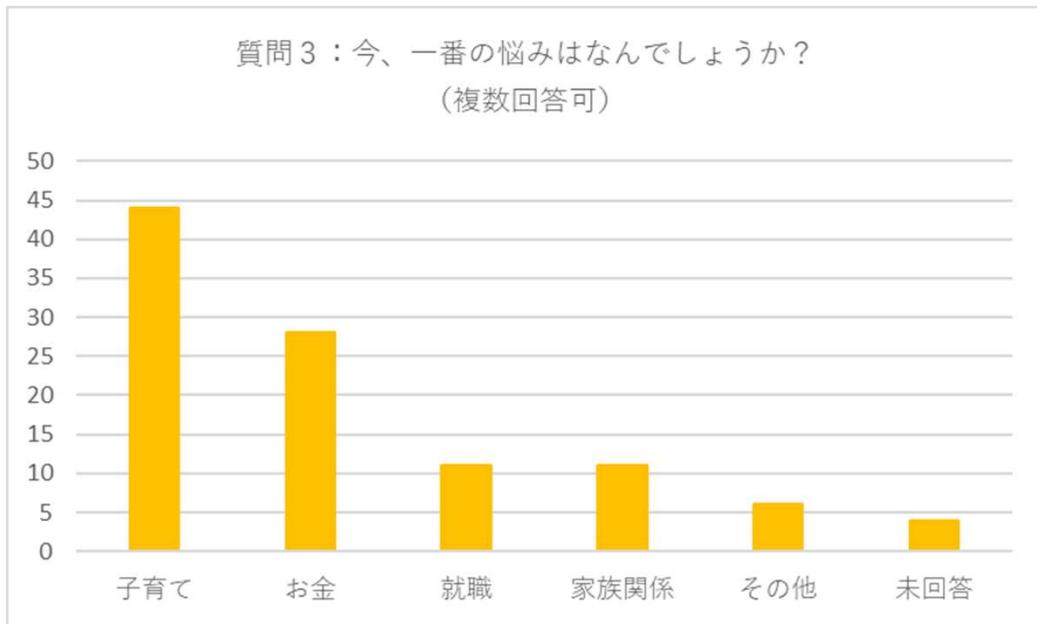
問2：本日のイベントに何を期待されていましたか？



事前期待は食料がもらえることが高い数値が出ている

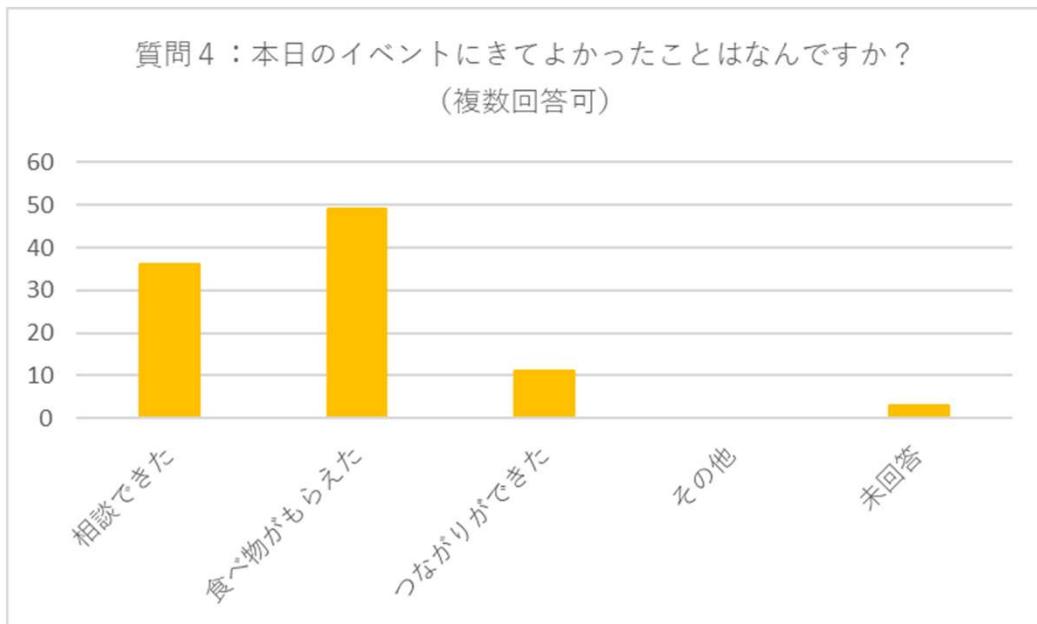
6-2 アンケート分析編

問3：今、一番の悩みはなんでしょうか？



事前としての悩みとしては「子育て」「お金」「家族」の順番であることが分かる

問4：本日のイベントにきてよかったですとはなんですか？

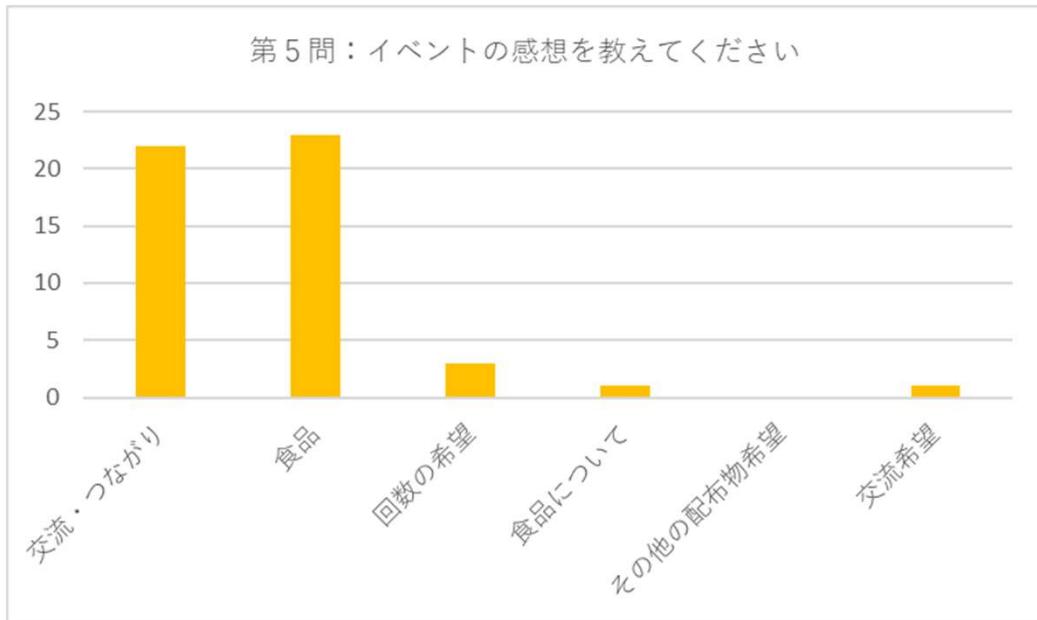


事後満足も「食料がもらえること」が高いことがわかる。

「相談できた」が事前期待よりもやや上昇し、「つながりができる」がやや下落している。相談会という形式であるための運営から影響を受けているものと想像される

6-3 アンケート分析編

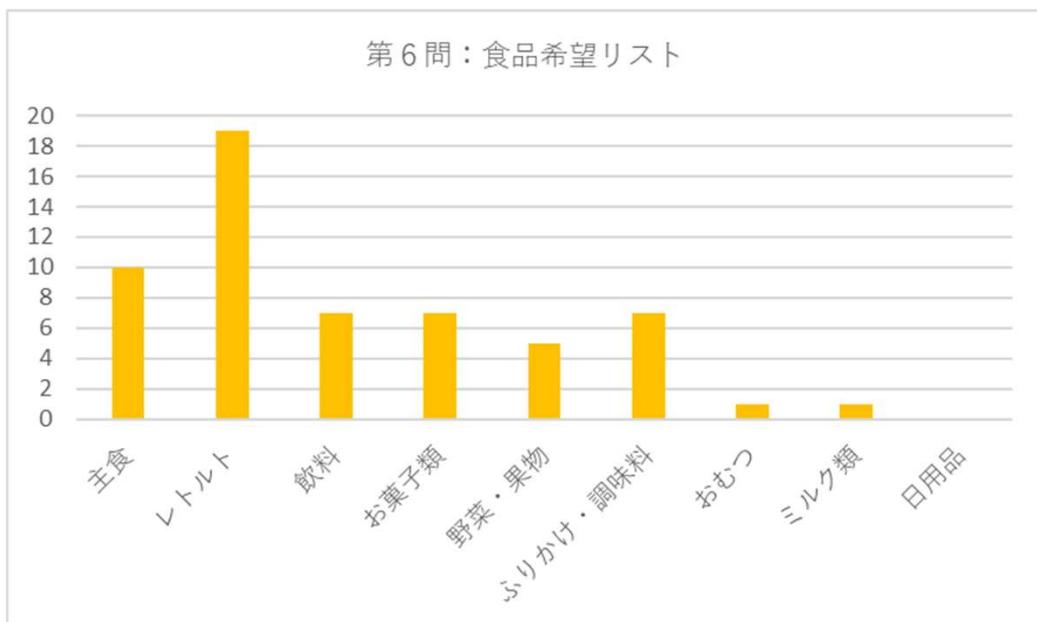
問5：イベントの感想を教えてください



第5問は記述式であるものを分類分けして分析した。

「食品をもらえた」こととほぼ同数の「交流やつながり」への感想が出ているのが特徴である

問6：食品の希望リスト



第6問も記述式であるものを分類わけして分析した。
夏以降に主食（米）への希望が増えたことが特徴である。

6-4 アンケート分析編

①アンケート概要（民間団体との連携事業実施分）

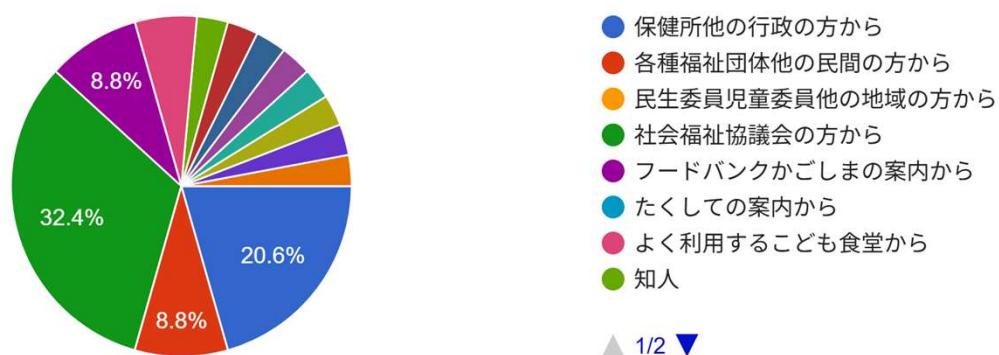
アンケートは全8問。第1問～第6問、第9問は選択式、第7問～第8問は記載式。アンケート回収は相談会後に記入の協力を直接依頼し、回収。回収数は34。回収率は91.9%。

②各質問の分析

問1

パントリーを知ったのはどちらですか？

34件の回答

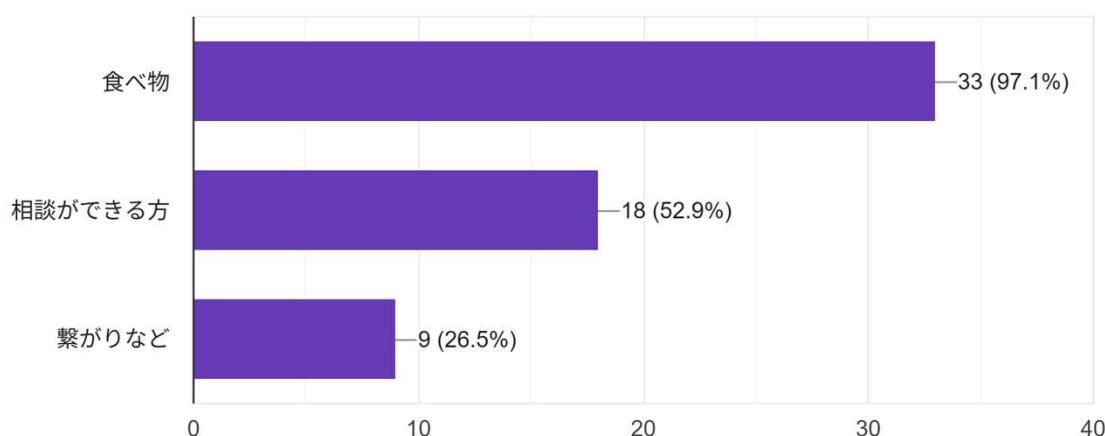


社会福祉協議会の紹介が32.4%と多く、次の保健所等の行政が続いている。行政との連携の重要さがうかがわれる

問2

本日のフードパントリーに何を期待されていましたか？（複数回答可）

34件の回答



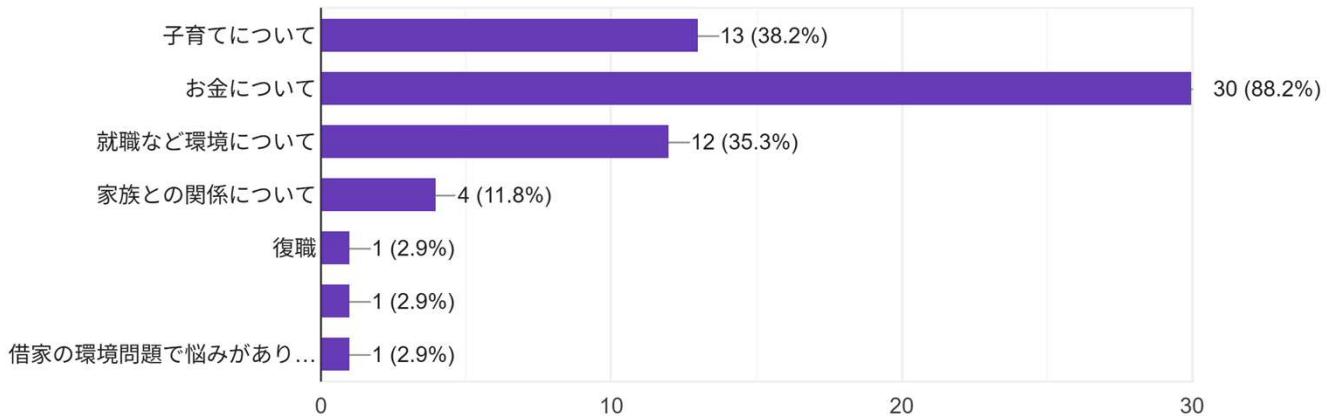
事前期待は食料がもらえることが高い数値が出ている

6-5 アンケート分析編

問3

今、一番の悩みはなんでしょうか？（複数回答可）

34件の回答

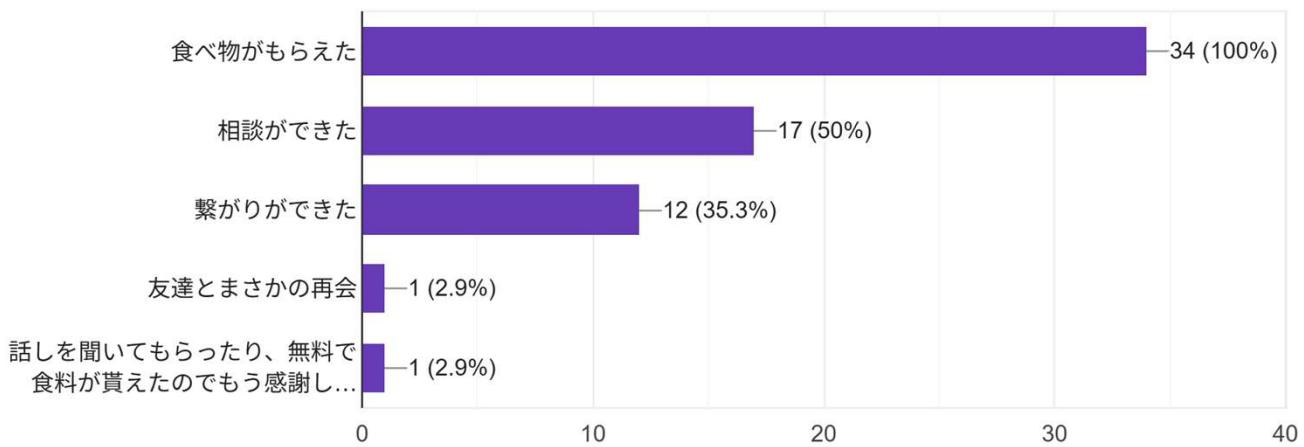


事前の悩みとしては「お金」「子育て」「就職環境」「家族」となっている。

問4

本日のフードパントリーに来てよかったですことは何ですか？（複数回答可）

34件の回答



事後満足も「食料がもらえること」が高いことがわかる。

「つながりができた」が事前期待よりもやや上昇している。

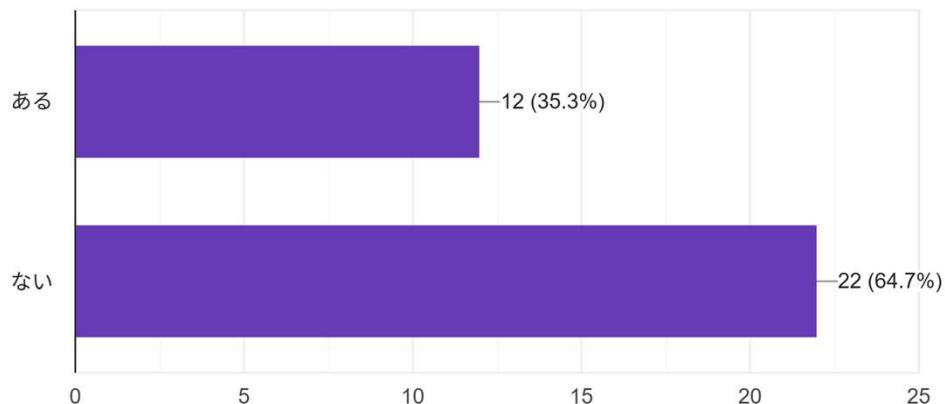
これは運営の形式で相談者同士が会話できるカフェ形式のスペースを作ったことが影響していると思われる

6-6 アンケート分析編

問5

他の子ども食堂やフードパントリーにいかれたことはありますか？

34件の回答

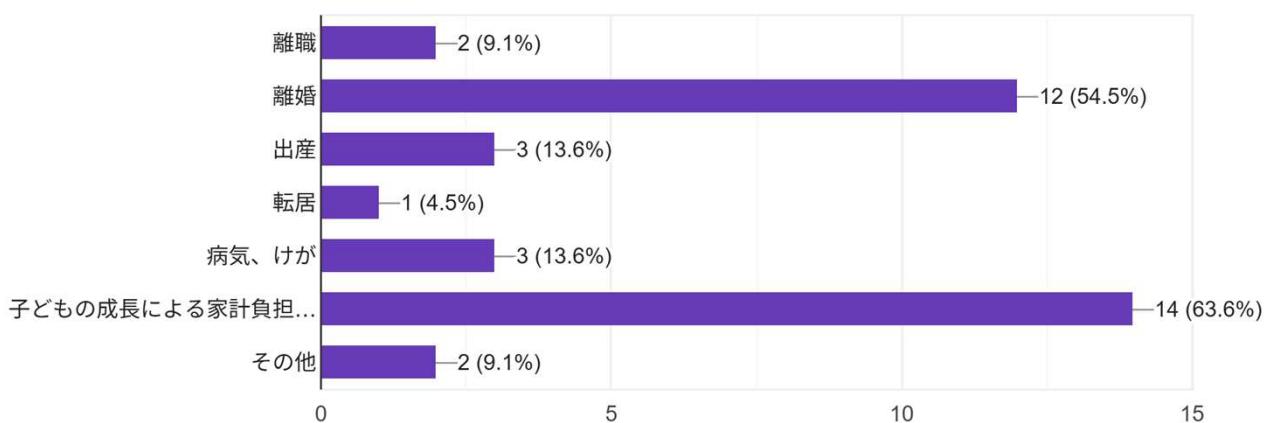


はじめてという世帯が約65%あり、必要な世帯にまだまだ届いていないという事実がみえる

問6

今の状況の原因は何だと思いますか、選んでみてください

22件の回答



現在の状況に陥っている理由としては「離婚」「子どもの成長による家計負担」が多かった。このことからサポートをしなければならないタイミングが見えてくる

6-7 アンケート分析編

問7 問6でその他を選んだ場合の記載欄

1件の回答があり、収入が上がらない中での物価高との答えであった

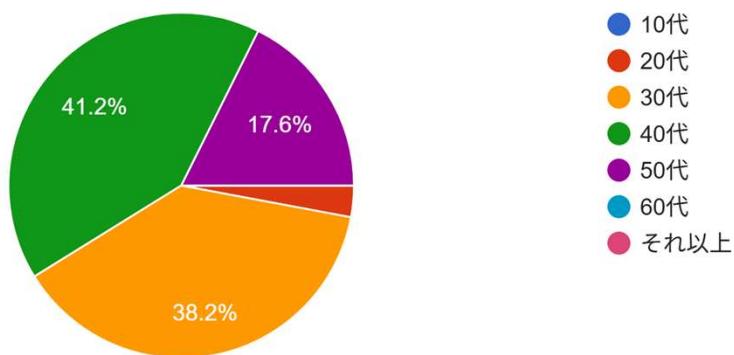
問8 運営に対する改善点の質問

8件の回答があり、食品提供への感謝2件、つながりができたことへの感謝1件、回数や場所への意見3件、駐車場に関するご意見1件、案内に関するご意見1件があった

問9

最後に年代を教えてください

34件の回答



参加の年代は30代～40代が多く、問6の子どもの成長による家計負担増との返答の多さの背景にもなっていると思われる

6-8 アンケート分析編

2種類のアンケートから見えてくること

○世代による相談内容の違い

鹿児島市と連携事業でのアンケートでは「子育ての悩み」が多く、民間団体との連携事業でのアンケートでは「お金の悩み」が多かった。市との連携事業ではアンケート内に世代を確認する項目は入っていない（名簿をベースとしているので把握ができるために不要）が、参加者が多かったのは20代であった。このことから「子育ての悩み」から「離婚」等を経て、

「子どもの成長による家計の負担増」に進んでいくというひとつのケースが見えてくる。この中で家族との関係等が複雑に絡み合いながら問題の深刻化が進んでいくことも想像された。対象世代による相談内容の違いは、本問題の解決の糸口が、「若年層の子育て世帯への子育て支援」の充実からスタートすることを示唆していると分析できる

○食品提供を入り口とした相談会誘導の有効性

いずれのアンケートでも、事前期待や事後満足度を分析すると、食品を提供することをドアノック的な役割として、根本的な問題解決に向かうきっかけとする手法は支援が必要な世帯へのアプローチとして有効的であることがわかる。このことは、現在こども食堂やフードパントリーを実施している民間団体と自治体の連携のひとつのルートを示唆しており、相談会等の悩み相談だけでなく、食品提供をフックとすることの有効性を示唆している

○持続可能な活動として続ける必要性

それぞれのアンケート内の記載部分の質問では、感謝の言葉と一緒に「回数を増やしてほしい」「場所を増やしてほしい」「次回も期待する」等の声が記載されることが多かった。このことから「相談会併設型フードパントリー」の効果は一定のものが認められ、且つ問題を解決するためには持続的な活動とするべきであると想像できる。行政だけではその地域のすべてをカバーすることは不可能であり、行政と民間団体が様々な垣根を越えて連携しながら活動を継続することが重要であると考える。

作成 特定非営利活動法人フードバンクかごしま
鹿児島県鹿児島市船津町1-11

